



TITLE:

花山だより

AUTHOR(S):

---

CITATION:

花山だより. 天界 1937, 17(190): 159-159

ISSUE DATE:

1937-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167408>

RIGHT:

## 花 山 だ よ り

◇12月6日、例年の總會に臺員一同出席、日食映畫に過ぎし日のセンセイションを追想する。老若男女 300 名打まぜた會合に天文の普遍性が偲ばれる。

◇花山と天文協會とは全く同名異物の様に廣く一般から親まれて來たが、生駒天文臺の建設、大阪にプラネタリウムの開館等天文界の躍進を目前に控えて、協會本部も他に移され大いに將來の發展に備へる由、期待される。

◇更に同好の士と喜びを共にし度いのは、此度山本教授の骨折で、又尾道市當局の後援の下に、來春を待たず近々の中に黃道光研究本部が設けられ觀測に研究に専念されるとの事で、永年斯道の開拓者荒木健兒氏が主任で着々準備中である。尾道の山深く山犬を捕へて客を待たるゝ由、勇あるの士は訪問せられ度し。但し一瓢の誼、一枝の雅は忘るべからず。

◇冬に入つて花山には訪れる人も無い、四圍に聞く松聲のみ。超世俗と云はれる天文人にも日々の紙面は敏感に響く。世を舉げてファシヨ、赤化、防共、軍備、1937年は世を舉げての非常時、過ぐる大戰に苦杯をなめた列國は口火のついた爆彈の押しやりに懸命である。昨年末西安に其の爆彈は投下された。赤化の成否をかけて東方に南下するソ聯、東亞の安定勢力を以て任する日本、漁夫の利を窺ふ老英國、正に世を舉げての非常時であらう。悠久への星空、混亂への地上、只管に感慨無量でもすむまい。悠久の宇宙にも刻々の進化があり、争鬭の地上、一刻の變轉にも悠久への喜びがある。

◇地界は全く黄金萬能、物價指數にも好景氣が出現する。但し invaluable の星空には何の變哲もない、時折に新星が爆發して一途に進化をたどるのみ。時潮に乗る幸人も不遇を託つ人も來れ、此處には何の障壁も無い。大いに宇宙を語り、百億の未來を論じようではないか!!

◇冬空のオリオンの美觀と云ふよりは寧ろ一種な莊嚴な壓迫と云つた方が適當であらう。正しくカントの畏敬である。悲痛の底にも、限り無くやさしく兩手で與へ呉れる或物を感じる。月夜よりは暗夜、白銀のドームに映える天上の舞蹈曲はいやが上にも森嚴である。一月八日（老人星）